

久保・長江中学校区 統合小学校・統合中学校の校名案 一覧表

R5.11.10 尾道市教育委員会

	校 名 案	備考
1	尾道市立尾道みなと小学校 尾道市立尾道みなと中学校	
	※尾道市立みなと小学校 尾道市立みなと中学校	
2	尾道市立尾道中央小学校 尾道市立尾道中央中学校	
	※尾道市立中央小学校 尾道市立中央中学校	
3	尾道市立尾道小学校 尾道市立尾道中学校	
	※尾道市立おのみち小学校 尾道市立おのみち中学校	
4	尾道市立 ^{かくわん} 鶴湾小学校	
	尾道市立 ^{かくわん} 鶴湾中学校	
5	尾道市立玉の浦小学校 尾道市立玉の浦中学校	
	尾道市立第一小学校 尾道市立第一中学校	
7	尾道市立未来創造小学校 尾道市立未来創造中学校	
	8	尾道市立 ^{おのみちちょう} 尾道町小学校
9	尾道市立 ^{さんざん} 尾道三山小学校	小学校のみ

- 今後、保護者、地域、学校からの新たな校名案の提案により、校名案は増える可能性があります。その場合には、上記の校名案に加えて検討します。

校名案

尾道市立尾道みなと小学校
尾道市立尾道みなと中学校

理由

- 1169年尾道村に備後国大田^{びんごのこくおおたのしょう} 荘の「船津^{ふなつ}（港^{みなと}）の倉敷地^{くらしきち}（年貢米や貢納物^{こうのうぶつ}を送る途中、一時置いておく場所と建物）」が置かれ正式な港となった。
- 尾道は、歴史的に見ると、開港によって町ができ、大きく発展してきた。港（みなと）は、人が集まり、人々が交流し、繁栄の象徴である。
- 港（みなと）は、海を通じて国内の他地域や、世界の国々ともつながり、豊かな未来へとつながっていくことができる。
- 「みなと」とひらがな表記にすることにより、読みやすく、親しみやすい。
- 「みなと」の前に「尾道」がついた方が、学校の所在地がわかりやすい。
- 長江小学校の校歌に「うるわしや瀬戸の海 大船止まる尾道港」という一節がある。

類似する校名案

- 尾道市立みなと小学校
- 尾道市立みなと中学校

校名案

尾道市立尾道中央小学校
尾道市立尾道中央中学校

理由

- ・明治31年（1898年）市制施行し「尾道市」となった。
昭和14年（1939年）山波村は尾道市に合併した。
- ・久保、長江、土堂、山波小学校区は、昭和14年から尾道市として一体感を醸成してきている土壌がある。そのため小中学校共に新設校を「尾道中央」としても違和感はないと考える。
- ・市内に、向島中央小学校、御調中央小学校と「中央」のついた小学校が2校あり、いずれも旧町の中央部であることを校名で場所を示している。「尾道中央」とすれば、歴史的な場所「尾道」と現在の市中心部の両方を学校名で表すことができる。

類似する校名案

- ・尾道市立中央小学校
 - ・尾道市立中央中学校
- ※市内どこの地域にある学校かわかりにくい。

校名案

尾道市立尾道小学校
尾道市立尾道中学校

理由

- ・明治31年（1898年）市制施行し「尾道市」となった。
昭和14年（1939年）山波村は尾道市に合併した。
- ・久保、長江、土堂、山波小学校区は、昭和14年から尾道市として一体感を醸成してきている土壌がある。そのため小中学校共に新設校を「尾道」としても違和感はないと考える。

※市内他地域から尾道を代表する学校（特別な学校）となるような誤解を受ける可能性がある。

※学校法人尾道学園 尾道中学校が向島にあり、公立では「尾道市立」が頭につくが、尾道中学校が2校あるというような誤解を受ける可能性がある。

類似する校名案

尾道市立おのみち小学校

尾道市立おのみち中学校

- ・「おのみち」をひらがな表記にすれば、親しみやすく、学校法人尾道学園 尾道中学校と区別することができる。ただし、口頭で学校名を述べた場合は同じ学校名に聞こえる。

校名案

尾道市立^{かくわん}鶴湾小学校

尾道市立^{かくわん}鶴湾中学校

理由

- ・尾道水道や市街地が、鶴が翼を広げたように見えたことから、別名「鶴湾（かくわん）」と呼ばれているため。
- ・鶴は一般的に幸運と長寿の象徴（健康長寿、繁栄、縁起が良い）とされている鳥であり、学校の発展、子供たちの健やかな成長をイメージすることができる。

参考

○広島県立尾道東高等学校の校章のデザイン（同校 HP より引用）

本校の校章は中心に「高」を配し、鶴が翼を広げた形を図案化したものです。「鶴」はその形から尾道水道が「鶴湾」と呼ばれることに由来しています。鶴が真正面を向き、大きく翼を開き、まさに大空に飛翔しようとする姿は、生徒の力強く前進する姿勢を表現しています。

○広島県立尾道東高等学校の校歌に「エンジン響く鶴湾に 世界を結ぶ波を聞く」という一節がある。

○広島県立尾道商業高等学校の校章のデザイン

「鶴」を図案化している。尾道水道が「鶴湾」と呼ばれることに由来している。

校名案

尾道市立^{たま}玉の^{うら}浦小学校

尾道市立^{たま}玉の^{うら}浦中学校

理由

- ・尾道で有名な千光寺の「玉の岩」伝説。その昔、玉の岩または烏帽子岩の頂にははるか遠くを照らす“宝玉”があったと伝えられている。「玉の浦」は千光寺玉の岩伝説からきた、尾道の別名である。
- ・16世紀の記録に玉之浦と書かれており、江戸時代にも玉ノ浦と呼ばれている。古くから尾道と併用されていた名前である。
- ・久保小学校の校歌に「由緒も古き港とて 尊き名なり玉の浦」という一節がある。
- ・山波小学校の校歌に「あたらしき 日本の夜あけ 玉の浦」という一節がある。

類似する校名案

なし

※尾道南高等学校の校歌に「玉の浦和の潮風に 厳しき疲れも現れて」という一節がある。

校名案

尾道市立第一小学校
尾道市立第一中学校

理由

- ・現在小学校の校番は、久保小学校が1番、長江小学校が2番、土堂小学校が3番である。また中学校の校番は、久保中学校が1番、長江中学校が2番である。統合小中学校共に現在の1番校を含むことになるので、「第一」は1番校を引き継ぐことができる。
- ・今後急激な少子化の中で、市内全域の学校統合について検討していく時期がくる。今後複数の中学校区が統廃合した場合に、地名が学校名に使えない可能性もあるため、「第一」にしておけば、次を「第二」とすることができる。

類似する校名案

なし

※「第一」にした場合、市内のどの地域にある学校なのかわかりにくい。

校名案

尾道市立未来創造小学校
尾道市立未来創造中学校

理由

- ・「未来」には、これからを生きる子どもたちの可能性を広げるという思いを込めています。
- ・「創造」には、これまでになかったものを新しくつくりだす。という意味があり、子どもたちが将来自己実現を果たすために、創造力を育成してほしいという思いを込めています。
- ・土堂小学校の学校教育目標に「未来」が使われている。
「志を持ち未来を拓く子どもの育成」
- 久保中学校の学校教育目標に「未来」が使われている。
「自ら学び、心豊かにたくましく未来を切り開く生徒の育成」
- ・長江中学校のめざす生徒像に、「新たな価値を“そうぞう”する」とある。ここでの“そうぞう”は「想像」と「創造」からなる。

類似する校名案

なし

※「未来創造」にした場合、市内のどの地域にある学校なのかわかりにくい。

校名案

おのみちちょう
尾道市立尾道町小学校

理由

- ・江戸時代初期、現在の久保、長江、土堂地区が「尾道町（おのみちちょう）」として定められた。
- ・明治31年（1898年）市制施行まで「尾道町」は続いた。
- ・統合する3小学校の校区と「尾道町」の場所が重なっているため、3小学校共通の歴史的な地名から校名を考えることができる。

※久保小学校 開校 明治 6年（1873年）

長江小学校 開校 明治41年（1908年）

土堂小学校 開校 明治33年（1900年）

類似する校名案

なし

※新たな中学校区には山波小学校区が入るので、中学校名に「尾道町」は使用できない。

校名案

尾道市立尾道^{さんざん}三山小学校

理由

- ・尾道三山は、瑠璃山（浄土寺山）、愛宕山（西國寺山）、大宝山（千光寺山）であり、それぞれ久保、長江、土堂小学校の3小学校区内に位置している。
- ・3小学校区に位置する「山（三山）」から校名を考えることができる。

類似する校名案

なし

※新たな中学校区には山波小学校区が入るので、中学校名に「三山」は使用できない。